

横尾 茂

(安井賞 第20回受賞者)

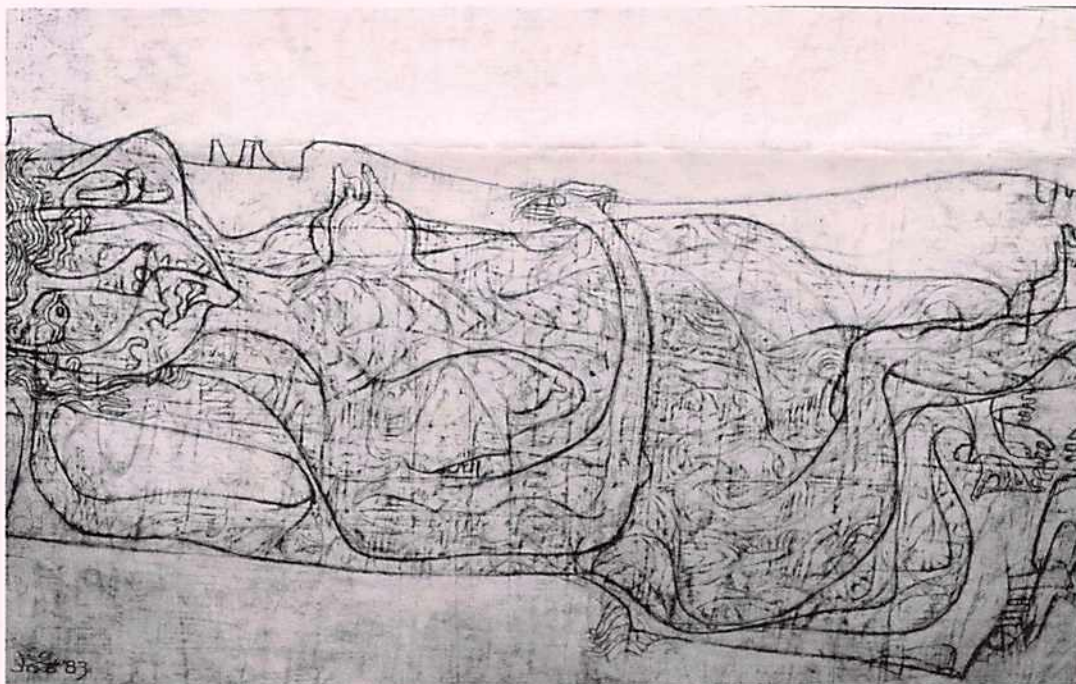
(上越市浦川原区出身) デッサンと小品展

10月11日(土)～10月15日(水) AM10:00～PM16:00

場所 きものの小川 2F展示場

きものの小川 上越市本町7-3-22 電話025-522-3400

連絡先 080-5017-6229 田辺周一



「屋下がり」 60×80cm クラフト紙 三重県亀谷美術館展出 1983年



「母子像」 17×24cm



デッサンNO14 49×64cm

展示作品はデッサンと油絵で30点ほどになります

横尾 茂 略歴 自由美術協会運営委員 日本美術連盟会員



- 1933年 新潟県上越市浦川原区横住生まれ 農業をしていたが絵が諦められず、20才で上京
- 1956～1968年 文化学院美術科にて山口薫、佐藤忠良に学ぶ。卒業後、大森絵画研究所にて8年間、人体デッサンをする。
- 1961年 自由美術展に参加。入選をする。
- 1965年 銀座中央画廊にて初個展。自由美術にて会員となる
- 1977年 第20回安井賞展にて初出品ながら受賞する
- 1978年 町田市民ホール 緞帳制作
- 1981年 郷土の上越市展の審査員を要請される
- 1985年 郷土の新潟県上越市浦川原公民館にて「横尾茂の世界展」
- 1994年～2008年 香川県、高知県、静岡県の審査員をする
- 2006年、7 自由美術協会事務所代表・個展および招待等多数
- 2012年、5 東京町田市にて逝去。78才。

横尾茂について

農業をしながら20才になった横尾茂が、絵を諦めきれず上京し、43才で第20回安井賞展に初出品で受賞という事実は、横尾茂が類いまれな才能を持った画家であることを示唆していると言わねばなりません。

描いては研り、研っては描き足すという横尾茂の制作画法は、雪深い故郷の大地に根を張る、命の迸りを執拗に抽出しようとした、横尾茂の試みだったと想起されます。

今回の作品展示は、初期の油絵の作品と、横尾茂が独特のスタイルを確立するに至ったプロセスでの、デッサンを含め、受賞後に描いた少数の油絵とデッサンで構成されています。

郷土が生んだ、不世出の画家・横尾茂のわずかな断片ではありますが、郷土に思いを馳せながら筆を走らせた横尾茂の作品を、ご高覧いただきますよう、御願いたします

2025年 10月

田 辺 周 一